


西京医師会区民公開講座2018



病とともに私らしく生きる
～望めばかなう在宅生活～

難病ALSと共存～会社設立と在宅支援

- ▶ 初めまして株式会社Un coeur取締役会長の林 新一朗と申します。
- ▶ 私は株式会社Un coeurを設立し、介護事業所として訪問介護あんくうるの業務を運営をしています。
- ▶ 発足間もない訪問介護の会社でございますが、利用者様のご期待に添えますよう、従業員一同、全力を尽くす所存でございますので、宜しくお願いします。

ALSの発症

- ▶ 私がALSと診断されたのが2006年の12月の39歳の時でした。宇多野病院でALSと診断され、進行が早ければ来年にはベットに寝たきりになると言われた時は、かなりショックを受けました。また、自分がALSの病気のことを殆ど知らなかったもので、まさかベットに寝たきりになるなんて考えられなかったことを思い出します。

ALSの症状

- ▶ ALSは運動神経系の難病であります。私の場合は左手先から腕へとだんだん動かなくなり、次に右手と足がだんだんと動かなくなって行きました。身体が動かなくなると同時に首の力が無くなり、頭が前側に下がり声が少しずつ出しづらくなって行きました。自分の身体がだんだんと動かなくなっていくのは、少し認めていたのも事実ですが、ALSの病気の進行で様々な時に判断をしていかなければなりません。その際の医療関係者や介護士さん達のアドバイスも大切なことだと思います。しかし、大切だと思っても自分自身の心の中は別で、なかなか受け止められなくて認めたくないのが本当の気持ちでした。

ALSの人の理解

- ▶ 難病のALSの事を全て理解するのは無理なことですが、理解をしていく努力をすることは出来ると思っています。それとALSの人の「こうして欲しい」と言う事には、必ず理由があると思います。また、ALSの病気以外にもその時に携わった病気の事を学ぶことも大事なことです。それとALSに成って初期段階の時に、ALS協会の人に、難病が進むと会話に主語が無くなると言われたことがありました。ALSが進行をして行くと、なるほどと思います。伝えたいことを焦ってしまうのと、会話を短文で伝えたいと言う気持ちが先行し、主語が無くなるのです。ALSの難病に成るとまわりが、見えなくなっていくのかもしれない。ALSの難病と共存をして行くうちに、家族の負担をかけている事が麻痺してしまっていることもあると思います。家庭に介護士さんが入って来ることは、家族の気持ちも複雑な事で難しい事なのかなと思います。

ALSのリハビリとマッサージ

- ▶ ひとつ早くから始めて良かったことが有ります。それは、前の仕事でお世話になっていた大阪にある病院の院長先生に、「すぐにリハビリをなささい。」と言われ、桂病院のリハビリを紹介をしてもらいました。ALSになってすぐに始めたことが凄く良かったと思っています。ALSの難病になると体を動かすことが出来なくなっていくので、関節の可動域を確保することは大事なことであります。それと言語聴覚療法も口や顔の表情筋を維持するためにはとても大切です。ALSは、体も動かなくなり声も出せなくなると、顔の表情で伝えるか、文字盤で伝えるしか無いからです。体が動かなくなると筋肉が硬直してしまい、体の痛みが出たりするので、定期的な訪問マッサージを行う事は、とても大切なことだと思います。

会社設立のはじまり

- ▶ 株式会社Un coeur を立ち上げるきっかけになったのは、良い志を持っている介護士さんとの出会いがあったからです。それと、ほぼ同じ年代で一緒に年を重ねて行こうと思った事もあり、この介護士さん達なら利用者でもある自分と組んで教育をすれば、必ず良い技術と、思いやりと、おもてなしの心を持った、志のある介護士を育てられると思ったのです。私は、ビジネスパートナーを見つけることができたことで、難病ALSと共存をして行く覚悟ができました。自分でも会社を設立出来た事や従業員が居てくれることが、今の自分の生きる幸せでもあります。

介護士の育成

- ▶ 私はALSになってから色々な介護士さんを見てきましたし、社長と副社長は何人ものALSの利用者様を見てきました。これらは、介護の指導に生かすことが出来、技術と思いやりの心を持った介護士を育てられ、良い事業所を作れると思います。そして人の良い所を伸ばして成長させる人づくりをして、人のプライドを傷つけない教育をめざして行きたいと思います。
- ▶ 私は訪問介護あんくうるの皆から、少しでも長く生きたいと思う勇気を貰っています。

会社の経営

- ▶ 会社経営は、ひとつのチームだと思っています。なので、株式会社Un coeurの名前にもその理念を入れ、フランス語で心をひとつに、という意味の言葉にしました。役員・管理職・現場・事務員といったそれぞれのポジションで、連携が取れていくのが、チームワークだと思っています。また、社員やパートさん達に福利厚生充実を、出来る範囲で行っていきたいと思っています。そのために従業員達で三ヶ月に一回程度、食事会をしたりして懇親を深めたり、社員やパートさん達に、退職金として中小企業退職金制度に加入をしております。健康診断も年に2回行うようにもしております。自分がかつとも大切にすることは、誠意を尽くした経営を目指して経営基盤の強化を図り、役員達と従業員達との信頼関係を大事に出来る会社に築き上げることです。

訪問介護を立上げて分かった支援

- ▶ 訪問介護あんくうるを立ち上げてみて、ALSの利用者様に入れる事業所の介護士さんが、まったく足りていないと感じています。現在も元々在宅支援を受けられていたのに、介護士さんのやむを得ない理由で在宅支援が受けられなくなり、病院に入院を何か月もしている利用者様もおられます。訪問介護の人材不足は、国内の事業所を調査したところ82.4%が人材不足と言う回答をしていることは、深刻な問題でもあります。

会社経営の実体験

- ▶ 私が仕事をし始めた頃は、バブルの終わりぐらいで仕事は有り余るぐらいあり、本当に誰もが儲けていた時代でした。20代でも独立して、かなり多額の給料を貰っていた人も多く、銀行も誰にでも貸していた時代でした。バブル崩壊後、間もなくすると見事にその人達がいなくなったことや、建設業も銀行の貸し渋りや不良債権処理に取り掛かり、たくさんの会社が潰れてきたのも見えました。
- ▶ 会社の代表取締役社長になったのは34歳の頃です。バブル崩壊後だったので、仕事も少なくして仕事の単価も安く、大学を卒業しても就職難の時代でした。いま現在はまったく反対の時代になって仕事はありますが人手不足であり、バブルの時に近い状態ですが、違うところは、企業も銀行も色々な経験をしたことだと思います。

これからの時代変化

- ▶ 時代は必ず変わりゆくものです。これから先は人口も減り、飲食業は三分の一以上が潰れて、建物も余りだし、空き家問題が起こり、私立の大学は倒産して行き、5年後には日本の女性の半分以上が50歳以上になると言われています。これはほんの一例でもあり、介護業界も5年後には、介護難民がふえて10年後に3人に1人が65歳以上になり、今より本当の老老介護になるのです。私自身の経験を生かし、時代の変化を見据えて、会社経営の戦略を考えながら、チャンス逃さない経営をしていける介護事業所にしたいと思っています。
- ▶ そして、私は他にもインターネットで株の現物取引や買い物などを行っています。株の取引をする事で、経済や経営の情報に興味を持ち始めました。世間の事が分かる事はとても良いと思っています。

在宅支援について一言

- ▶ 在宅支援は、行政の関係者・医療関係者・介護の関係者の人達が、それぞれの所で動いてくれているので、「病気や難病」であっても住み慣れた家で在宅支援を受けられ安心して暮らせていることに、感謝申し上げます。
- ▶ それと最後に、私の生き方
- ▶ 自分が選択した、人生をどう生きていくかを、前向きに考え、前進して、いきたいと思います。
- ▶ わたくしは、難病であっても人の役に立てる仕事に、たずさわれた事を、応援をしてもらう周りの皆様に、感謝を思っています。
- ▶ 何とぞ、今後ともご支援ご指導を賜りますよう、お願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。